

平成26年度 委員会事業報告

委員会名	因幡創新特別委員会				委員長	田淵裕章	
事業名	鳥取市長選挙公開討論会～未来は僕等の手の中に！～						
実施日時	2014年3月28日(金)19時00分～21時00分						
会場	とりぎん文化会館 小ホール						
参加人員	内部	60	人	外部	299	人	計 359人
動員計画検証	<p>動員について内部では全メンバーには至らなかったが多くのメンバーに参加して頂き、当日の設営や運営にもご協力頂けた。しかし、動員開始から事業当日まで短期間であったため当日来場者については目標の500人を集客出来なかった事、そして本来のターゲットである若年層の集客には遠く及ばなかった事など、多面的に至らない事が多かった。今後、政治に興味を持たない若年層の集客については、事業内容である討論の設問をもっと絞り、自らの生活に関わることを徹底的に討論してもらう内容にするなど工夫が必要である。</p>						
事業目的検証	対外的	<p>投票率結果の52.9%について当事業の効果測定を摂ることは出来ませんが、市民の半数のみの参画結果という数字について、多くの反省と課題が残った。また、投票率の向上にはまちづくりを担う若年層の参画が必須と考えた時、当日来場者に占める割合を見ても、ターゲットに対してのアプローチの更なる工夫が必要と考える。</p>					
	対内的	<p>事業を実施できたこと、そして当日の設営や運営に参加していただけたことでLOMメンバーにも市民の一人として参画意識を持ってもらうことが出来た。また動員にご協力頂く際にも、事業内容を伝えることで多くの市民へ鳥取青年会議所は公益事業を実施できる団体であると認識して頂けた。</p>					
事業内容検証	運営上	<p>FM鳥取のご協力により、事業当日までの告知CM、また投票日までのCMもあり、多くの市民の皆様様に鳥取市長選挙への参画意識のきっかけをつくることができた。また、当日にFM鳥取の同時生放送の視聴、またニューストリームの同時生配信映像の閲覧(約150人が閲覧)を実施できたことで、来場者の他に多くの市民の皆様様に事業を見て頂けた事も事業の成果の一つとなった。ただし、当日の公開討論会の内容については、当日アンケートにも賛否両論の回答をいただいた。内容の構築にまずターゲットを早急に絞り、討論内容も厳選した設問を準備する必要がある為、事業実施までもっと多くの時間が必要である事を感じた。</p>					
	予算上	<p>施設賠償責任保険について確認不足であったため当日の保険料を見落としており、予算上の変更が生じた。</p>					
	その他						
今後の展望	<p>今回の事業を実施した後の検証によって、事業構築までの必要であろう活動と期間を提案することができた(※添付資料タイムライン参照)。2年後の市長マニフェスト評価会の実施を期待することも今後の鳥取JCと市政との関わり方について更に深く議論することが必要です。</p>						

委員会名	因幡創新特別委員会				委員長	田淵裕章	
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 創立55周年記念事業 芝生だヨ！全員集合～目指せ！日本一の芝生王国～						
実施日時	11月3日(月)※祝10:00～16:00 (第一回アルティメット鳥取JCカップのみ8:45～)						
会場	コココーラウエストパーク 陸上競技場、球技場						
参加人員	内部	92人	外部	5200人	計	5292人	
動員計画検証	<ul style="list-style-type: none"> ●メイン会場である球技場へ来場頂いた正確な来場者数を把握するために、会場入り口で独自にカウントをすべきであった。 ●緑の感謝祭の固定動員数に頼り過ぎていた点も反省が残る。球技場への誘致計画も十分に練っておく必要があった。 ●SNSを含めたメンバー伝いの動員をよりシステム化した上で、活用すべきだった。 ●小学校校庭芝生化を見据えて、小学校のPTA関係者の動員に対して成果が得られず、より早い段階から計画的に行うべきだった。 ※その他詳細はアンケート考察資料を参照						
事業目的検証	対外的	<ul style="list-style-type: none"> ●多彩な体感コンテンツを用意したものの、全てにおいて十分な演出を施すことが出来なかった。 ●発信の核として参考資料の聴取率を元にラジオ生放送を行ったが、私たちのメッセージを受け取ったかどうか、届いたかどうか、どう感じたか、検証材料に乏しく測定の仕事掛けをすべきであった。また番組映像・音声はUSTREAMにて記録保存を行ったが、それを有効活用する手法を内部に向けて示すことが出来なかった。 ●55周年記念としてなんらかのカタチ(50周年時の市民協働による芝生化)を残す必要性を感じた。 ●『因幡』＝『環光のまち』の地域イメージを「日本一の芝生王国」として表現し来場者へ体感・共有することが出来、地域イメージ定着の一助となった。 					
	対内的	<ul style="list-style-type: none"> ●前日・当日とも、メンバー丸となって設営・運営することで、創立60周年に向けて、明るい豊かなまちを実現していく決意と機運を醸成する事ができた。 ●『芝生の取り組み』を活用して「環光のまち因幡」を身を持って体感・発信し、理解を深めることで、2ndステージへと一歩を踏み出すことが出来た。 ●しかしながら適切な人員配置とシミュレーションの不足のため運営上負担を大きく掛けたメンバーにとっては、効果が不十分であった事は否めない。 					
事業内容検証	運営上	<対外的> <ul style="list-style-type: none"> ●事業構築へのプロセスが後手に回ったため、メンバー全体で、時間を掛けて企画を立案し、事業当時を足並みを揃えて向える必要があった。 ●鳥取JCブースは、準備期間・特別委員会のフォローをしっかりと行い、より一層市民とメンバーが取り組みを共有・共感できる空間を表現すべきであった。 ●芝生化相談窓口、芝生CAFÉ等一部コンテンツの企画演出が不十分であった。 ●雨天対策により、FM鳥取のブースの配置を急遽変えざるを得なくなり、当初予定していた会場内へ番組内容の発信が出来なかった。 ●屋台ブース・ステージ演出は、より来場者の目線に立った設営を行い、開放的な空間を提供すべきであった。 ●全てのコンテンツを一会場に集約させた方が、運営面でもロスも少なくなり一体感が出たのかもしれない。また、スタンプラリーは、会場面とコンテンツが多すぎた事が要因で、用意した300の内220人しか参加しただけなかったため、閉会間際で来場者へ配布することとなった。 ●指示不足・シミュレーション不足により、アンケート採取が108/180部と目標に達しなかった。 ●アルティメット大会に於いて接触による大怪我が発生した。救護テント・連絡体制・事前準備等の危機管理が甘かった。 <対内的> <ul style="list-style-type: none"> ●搬入、搬出、会場設営は事前にシミュレーションが徹底できていたため、滞りなく行うことが出来た。また、鳥取JCらしい皆で創る手作り事業が設営でき、記念事業として相応しい内容となったと感じる。 ●JCブース、スタンプラリー、芝生いいねMAP等で来場者と密にコミュニケーションを取ることが出来、55周年を迎えた鳥取JCの発信が出来た。 ●人員配置の不備があり、運営場所から離れることが出来ず、メンバー全員が記念事業を広く体感するに至らなかった。また、事業に至るプロセスの遅れもあり、全体事業としてメンバーのベクトルを一方向に合わせる事が出来ていなかった。 					
	予算上	事前の確認不足のため、フライングディスク器具借上げ代金は掛からない事が判明したため、54,000円という大きな差異が生じた。					
	その他	鳥取方式®の全国芝生化サポートネットワーク等、「芝生」という一つのコンテンツで他団体がベクトルを合わせ事業を執り行うことで、何倍にも発信効果が増す。同日開催で発信力を強くしていくことが好ましいと考える。また、USTREAM拡散のために、安価で効果を出すことが出来るSNSの力を活用して、より広く発信していくためのマニュアル等用意すべきだった。					
今後の展望	「環光のまち因幡」の地域イメージ定着から確立へ向けて、継続的な発展事業及び運動推進の為の組織広報を積み上げていく必要があります。60周年時にはそれを集約し、因幡市民が共有・共感できる理想のまちの姿を発信できる記念事業として頂きたい。						

委員会名	55周年実行特別委員会				委員長	荒田 潤之介	
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 創立55周年記念大会 【記念式典】						
実施日時	平成25年5月11日(日) 14:30～15:50(80分)						
会場	ホテルニューオータニ 鳳凰の間(東西)						
参加人員	内部	94人	外部	229人	計	323人	
動員計画検証	締め切り日の出欠ハガキ返信状況は、約3割強でしたが、その後、委員会メンバー・四役を中心とした気持ちを込めた出欠確認と声掛けが功を奏し、目標であった300人以上を達成できました。新年祝賀会同様に締め切り時の返信状況はあまりよくありません。それからの気持ちを込めた声掛けが出席率向上のために重要となります。						
事業目的検証	対外的	創立55周年という節目となる年に記念式典を開催し、多くの御来賓、友好団体、他LOM、OB会員の皆様をお招き出来たことにより、これまでの活動へのお力添えに感謝を伝えることができました。また、次の創立60周年に向けた私達の決意と因幡地域への想い、改訂運動ビジョンを含め、大きく発信することで、(公社)鳥取青年会議所の活動に対して、これまで以上のご理解とご協力を頂く一助となりました。					
	対内的	創立55周年記念式典を通して、(公社)鳥取青年会議所の歴史の再認識し、創始の心に立ち返り、OB会員の皆様はじめとする多くの人達の想いを継承することができました。愛する因幡の発展に対して、自分たちの誇りと責任をメンバー全員で再認識できました。そして、改訂運動ビジョンを因幡地域で確りと展開していくために今後の活動に対して想いを新たにし、メンバー一丸となって進む決意を固める場となりました。					
事業内容検証	運営上	鳥取青年会議所の伝統を確りと継承した厳粛なる記念式典を開催することが出来ました。オープニング映像で、鳥取青年会議所の創始の心と歴史を再認識できました。また、麒麟獅子の舞を盛り込むことで、因幡の伝統文化に触れて頂く共に私達が地域の文化を大切にしていることを伝えることができました。そして、理事長挨拶をはじめとする、創立40周年以来復活した歴代理事長紹介等の感謝を伝える場で、出席して頂いた皆様に確りとこれまでの感謝を伝えることができました。その反面、設営(受付・誘導等)や準備(懇親会場)があったとはいえ、鳥取青年会議所メンバーへの最低限の人数を設営に残すことが周知徹底が出来ていないこともあり、メンバーの式典への出席が、半数程度という事態を招くこととなりました。前年の準備委員会の段階からの準備不足が最後まで響く結果となり、前年準備委員会の重要性を改めて感じました。					
	予算上	概ね予算内で、事業を開催することが出来ました。しかしながら、当初予定していたステージ飾り花ですが、会場設営リハーサル時にステージ等を設置し、式典後の講演会の配置・動線等を検証した結果、予定していた以上狭く、設置スペースがなく断念しました。事業計画時のシミュレーションが十分ではありませんでした。また、お礼状ですが、計画では、OB会員の皆様には、発送予定ではありませんでしたが、出席への感謝を伝えるため追加発送を行ないました。					
	その他	記念大会の成功は、組織が一つになること、メンバーのモチベーションを高める取り組み、確りとしたシミュレーション・準備を行なうこと、尊い組織である鳥取青年会議所らしさを追及し、確りと盛り込むことが大切であります。また、周年事業は、周年委員会メンバーで作り上げることが出来ません。全メンバーの力をもって成功へと導きます。また、サポートメンバーを設けたことは、記念大会成功へと繋がり、大きな効果がありました。					
今後の展望	鳥取青年会議所の長い歴史の中、記念すべき周年の記念大会を行なう上で、事業の背景、目的を確りと捉え、全メンバーに学びの機会を設けるなど工夫をし、事業構築を行なってください。事業背景、目的を明確に捉えることが記念大会へのLOMモチベーション、事業成功へと導きます。記念式典は、出席者に今までの感謝を伝える大切な場です。厳粛なる雰囲気づくりと感謝の気持ちが伝わる、確りとした設営をお願い致します。次回は、創立60周年です。0周年の意義を確りと捉え、全国のどのLOMにも誇れる鳥取青年会議所らしく、伝統である規律とメリハリある記念大会を実施して頂くことを楽しみにしています。						

委員会名	55周年実行特別委員会			委員長	荒田 潤之介	
事業名	公益社団法人鳥取青年会議所 創立55周年記念大会 【記念祝賀会】					
実施日時	平成25年5月11日(日) 17:45～19:15(90分)					
会場	ホテルニューオータニ 鶴の間(東中西)					
参加人員	内部	96人	外部	212人	計	308人
動員計画検証	締め切り日の出欠ハガキの返信状況は、約3割強でしたが、その後、委員会メンバー・四役を中心とした気持ちを込めた出欠確認と声掛けが功を奏し、目標であった300人以上を達成できました。					
事業目的検証	対外的	創立55周年という節目となる年に記念祝賀会を開催し、多くの御来賓、友好団体、他LOM、OB会員の皆様をおもてなしの心を持ってお招きし、これまでのお力添えに対して感謝を表わすことができました。また、歓談の時間を多くとり、懇親を深めることで、公益社団法人鳥取青年会議所の創立60周年に向けた活動に対して、益々のご理解とご協力を頂く一助となりました。				
	対内的	創立55周年記念祝賀会を通して、多くの御来賓、友好団体、他LOM、OB会員の皆様をおもてなしの心を持ってお招きし、益々のご理解とご協力を頂くことで、改訂「環光のまち因幡」推進運動を因幡地域で確りと展開していくための一助となりました。また、全メンバー協力の下、開催できたことで、組織の結束力も一段と高めることができました。今後、愛する因幡の発展に対して、自分たちの誇りと責任をメンバー全員で再認識することで、想いを新たにし、メンバー一丸となって進む決意を固める場となりました。				
事業内容検証	運営上	<ul style="list-style-type: none"> 事前全体説明会や、日本海テレビアナウンサー下山氏のおもてなし講座を通して、おもてなしの心を学ぶと共に組織全体の記念大会へ気運が一気に高まり、出席者から、満足して頂ける祝賀会を開催することができました。 因幡の食材を中心とした料理構成と飲食ブースを設けることで、鳥取の食を堪能し、満足して頂くと共に因幡の食のPRと因幡の地域力を知って頂くことが出来ました。 歓談の時間を中断することないよう計画したことで、今後の活動や運動に対して、ご理解とご協力を頂くため、確りと懇親を深めて頂く場を設けることができました。 鳥取青年会議所メンバーの席を設けず、おもてなしに徹することで、出席者に私達の感謝の気持ちが、伝わった一方、会の後半以降、どう対応すればいいかわからず、会場後方にて時間を持て余しているメンバーが多数見受けられた。 				
	予算上	出席人数に左右される飲食費・記念品代を別会計とし、出席者からの登録費ですべて賄うことで、出席人数の変動にぎりぎりまで対応することが出来、祝賀会の予算に大きな支障が出ることもなく、計画通りの予算内で、納めることができました。				
	その他	式典・講演・祝賀会と同ホテル内会場で行なったことにより、各事業の移動をスムーズに行なうことができ、出席者の拘束時間や移動時間を短縮すると共にスムーズな運営を可能とした。また、祝賀会の終了時間を19:15に設定することで、出席者の自宅までの帰宅時間に対する負担を軽減することができました。				
今後の展望	鳥取青年会議所の長い歴史の中、記念すべき周年の記念大会を行なう上で、事業の背景、目的を確りと捉え、全メンバーに学びの機会を設けるなど工夫をし、事業構築を行なってください。事業背景、目的を明確に捉えることが記念大会へのLOMモチベーション、事業成功へと導きます。記念祝賀会は、アトラクションや飲食を通して、出席者に因幡の文化や食に触れて頂ける大切な発信の場でもあります。出席者に満足して帰って頂ける様に配慮をお願い致します。また、出席者と確りと歓談の時間をとることで、懇親を深め、私達の活動へのご理解とご協力を頂けるように設営をお願いします。今回は、創立60周年です。0周年の意義を確りと捉え、全国のどのLOMにも誇れる鳥取青年会議所らしく、規律とメリハリある記念大会を実施して頂くことを楽しみにしています。					

委員会名	55周年実行特別委員会				委員長	荒田 潤之介	
事業名	公益社団法人鳥取青年会議所 創立55周年記念大会 【記念誌の発行】						
実施日時	平成25年5月11日(日) 式典前受付にて配布						
会場	ホテルニューオータニ 鳳凰の間(東西)前受付						
参加人員	内部	100	人	外部		人	計 100人
動員計画検証	特になし						
事業目的検証	対外的	数回に亘る校正を通し、全メンバーの力をお借りして、創立55周年という節目を迎え、創立50周年から5年間の活動と改訂運動ビジョンを中心に(公社)鳥取青年会議所の過去・現在・未来を冊子に纏めることができました。また、記念誌を通して (公社)鳥取青年会議所への理解を更に深めて頂き、これまで以上のご理解とご協力を頂き、地域の明るい豊かなまちを実現していく一助となりました。					
	対内的	(公社)鳥取青年会議所の歴史を再認識し、創始の心に立ち返り、OB会員の皆様はじめとする多くの人達へ感謝の想いを継承することが出来ました。また、過去5年間の活動と改訂運動ビジョンを中心に確りと纏め上げることで、メンバー一人一人が確りとJC活動を行うため、そして因幡地域のまちづくり・ひとづくりを共に行う仲間を拡大していくためのツールとして有効に活用して頂けるものができました。					
事業内容検証	運営上	委員会とサポートメンバーによる校正後、全メンバーに2日開催に渡る校正を行い、1日ごとに修正をかけて、記念誌の精度を高めました。最終校正を委員会と鳥取青年会議所ベテランメンバーから、5人ピックアップして、最終校正をお願いしたことで、かなり高い精度の原稿の入稿を行うことが出来ました。					
	予算上	鳥取会議所メンバーの会社に依頼を掛けることで、低予算で、予算内に抑えることができました。					
	その他	もう1ヶ月早く議案上程していれば、もっと余裕もって記念誌の校正や精査ができました。記念誌を配布する日から逆算して、作成・校正・入稿のスケジュールをきちんと計画し、審議承認は、2ヶ月前がベストでありました。これから入会してくる新入会員や、今後関わっていく外部協力者に配布するために予備の記念誌作成しておいたことは、今後、私達の活動を伝えて行くためにも重要なツールになります。					
今後の展望	次の60周年は、0周年です。確りと予算取りをし、ページ数を充実させ、記念誌の役割をきちんと学んで、60周年にふさわしい内容となるようお願い致します。また、記念誌の校正は、何度も行うことで、記念誌の精度が高まって行きます。全メンバーで校正を行うことが大切です。記念大会の日に必ず出席者にお渡しできるように作成→校正→入稿→印刷→配布とスケジュール管理には、十分気をつけて計画するようにお願いします。今後、入会してくる新入会員や今後関わる外部協力者に配布するために予備の記念誌を5年分、必ず作成するようにお願いします。						

委員会名	55周年実行特別委員会			委員長	荒田 潤之介	
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 創立55周年記念大会【記念講演】					
実施日時	平成25年5月11日(日) 16:00～17:30(90分)					
会場	ホテルニューオータニ 鳳凰の間(東西)					
参加人員	内部	94人	外部	325人	計	419人
動員計画検証	行政・銀行・経済団体・マスコミ・大学・JA・NAKED配布店・公開討論会等で、チラシ・ポスターの配布、ホームページ上や、日本海新聞での事前告知をし、因幡市民に向けて動員を行ないましたが、150人という目標達成のためには、大きな効果が得られませんでした。市報への掲載等、もっとできることもありました。また、予算には限りがありますが、入場料を取ってでも市民がもっと聞いてみたい、普段、因幡地域では、聞けないそういった人物選定を行なうことも今後視野に入れていくべきだと感じました。					
事業目的検証	対外的	創立55周年という節目となる年に記念大会と共に運動ビジョンの更なる推進や、因幡地域の明るい豊かな社会実現に繋がる記念講演を多くの御来賓、友好団体、他LOM、OB会員の皆様、そして因幡市民の皆様に向けて、開催することができました。また、改定運動ビジョンを動画を使用することでわかりやすく伝えることが出来ました。しかしながら、多くの気付きや知識を持ち帰って頂き、今後、因幡地域で活躍して頂く一助となる講演を予定していたが、講師本人との電話打ち合わせ3回、事前の資料発送など行ない趣旨を伝えましたが、思った以上の効果を講演で得ることができませんでした。しかしながら、事業系の委員長を交えての座談会では、大きな成果を得ることが出来ました。				
	対内的	記念講演を通して、知識を深めると共に愛する因幡の発展に対して、自分たちの誇りと責任に対してのモチベーションを醸成するのに講演内容が十分ではありませんでした。また、50周年の反省を活かし、なるべく多くの鳥取青年会議所メンバーに講演を聞いて頂くためにモニタールームまで準備したが、音声が届かなくなったり、十分な効果を得ることができませんでした。会場にも空席があったが、受付や会場誘導、祝賀会の準備等で、講演を聞けないメンバーが多数おり、目的を達成できませんでした。				
事業内容検証	運営上	記念大会全体を通してのタイムスケジュールを考慮し、式典と講演、同一会場とし、講演を因幡市民へも開放を行ったこともあり、当日混雑が予想されました。しかしながら、式典終了後、因幡市民との動線を分けるように誘導員を設けたり、控室を設け混雑を解消するために計画したことにより、受付や会場前のロビーのキャパもあり、多少混雑しましたが、一定の効果を得ることができました。また、アンケート告知不足もあり、特に記念大会出席者アンケートの回収が少なかつた。				
	予算上	概ね予算内で、事業を開催することが出来ました。目的に対して、思った以上の効果を得るためには、有料にしても、影響力のある講師選定をすべきでありました。目的達成には、ある程度の予算も必要となってきます。また、事業が、5月開催の場合、審議が3月、遅くても4月ということで、行政の補助金の申請期間と合致しないため補助金を得ることが出来ない短所も露呈しました。新聞社や、テレビ局等との企業と共催とすることで、予算を確保するなど工夫すべきであった。				
	その他	講師選定は、非常に難しく、直接、講師と会い打合せを行なったり、過去の講演の動画を購入し、確認するなど行なった方がよい。今回は、講師と直接会う機会が得られず、電話・資料発送等でしか対応できませんでした。また、過去の講師の講演動画を購入し、講師選定をすべきであった。座談会は、非常によい取り組みでした。やはり、その道のプロフェッショナルに直接会う機会を設けることは、今後も必要であり、私達の運動を更に推進する一助となります。				
今後の展望	記念大会で、記念講演を行うことを再度、検証してください。記念講演の予算を記念事業に当て、より発信力のある事業を構築することも検討してみてください。また、記念講演で入場料を頂いてでも、市民がもっと聞いてみたい、普段は聞けないそういった人物選定を行なうことも今後、検討してみてください。無料ということは、逆に価値のない講演だと捉えられることもあるようです。					

委員会名	会員拡大特別委員会				委員長	石川 陽介	
事業名	会員拡大						
実施日時	2014年1月1日～2014年12月31日						
会場	事務局他						
参加人員	内部	113	人	外部		人	計 113 人
動員計画検証	異業種交流会について、本年度はチラシを対象者に配布するだけでした。今後はチラシと並行してポスターやSNS等を活用し広く発信することで、より多くの方へ発信でき、参加者増につながると考えます。						
事業目的検証	対外的	志の高い仲間を増やし、団結、研鑽を重ねるきっかけと結果を残すことができました。これにより、「明るい豊かなまち」の実現へ更に前進することができました。					
	対内的	新入会員の増加により、会員へ新しい出会いを提供することができました。これにより、活動への刺激やお互いの成長へとつながり、会員自身も自信と誇りを持って青年会議所活動に率先して取り組むきっかけとなりました。					
事業内容検証	運営上	青年会議所活動の根幹である会員拡大は組織全体で取り組むべきであります。そのためには、組織のモチベーションを維持していくことが不可欠です。本年度は目標の明確化と理事長からの大号令をいただき、メリハリのある運営につながったと言えます。そして、大切なのは会員ひとりひとりが拡大運動の意識をしっかりと持つことです。どのようにしたら拡大の意義を伝え、理解し、行動に移せるのかをしっかりと議論してください。活動期間について、通年での活動ではありますが、特に活動を強化する月間を設けて、メリハリのある活動が望ましいと感じました。本年度は入会締切前の2ヶ月間に対象者にスポットを当てて異業種交流会の開催、面談アポイントを取りました。それ以外の月はモチベーションの維持、情報の整理等に注力する必要があります。					
	予算上	本年度は拡大ツールを印刷しただけのものを使用しました。会員の想いは各々に差はありますが、変わらない、変えてはならない組織の活動概要については認識に差があってはなりません。誰が説明しても同じことができるような拡大ツール(パンフレット等)の作成に予算を費やして、効果的な拡大につなげてください。					
	その他	拡大活動は拡大リストの運用が肝とも言えます。本年度は各委員会に拡大特別委員会から担当を割り振りし、情報の収集と拡大リストの反映を試みました。しかしながら、人の管理は難しく、情報の更新がスムーズにいかない場面も多々ありました。人の管理ではなく、仕組み、システムをしっかりと構築する必要があります。					
今後の展望	会員拡大は唯一、単年度で終わらない事業です。終わってはいけません。多くの卒業予定者を控える近年ですが、会員の減少だけを懸念するだけでなく、減少した先のイメージ、会員が増加した時のイメージをしっかりと取り組んでください。なぜ会員拡大をしないといけないのか、根本的な部分を理解して進まないで継続していくこと、または、伝えていくことは続きません。短期的、中期的、長期的な展望を明確にして事業に取り組むことで結果はおのずとついてくると感じます。そして、それを伝えるべく本年度は異業種交流会を実施しました。異業種間交流の良さを伝え、その先にある友情・奉仕・修練を学べる組織が世界にあることを継続して伝えていくことで、鳥取青年会議所のイメージの向上を推し進め、効果的な拡大活動に繋がると考えます。						

委員会名	会員拡大特別委員会			委員長	石川 陽介
事業名	会員拡大アカデミー～意気あふれる人材の育成 必達33%増～				
実施日時	2014年4月12日(土) 15時00分～17時50分				
会場	鳥取市文化センター 2F大会議室				
参加人員	内部	53人	外部	1人	計 54人
動員計画検証	土曜日開催で仕事、家庭の都合を懸念しておりましたが、約半数の参加をいただきました。また、急遽の案内となりましたが鳥取ブロック内の各LOMへ開催案内をした結果、他LOMから2名の参加をいただきました。しかしながら、全員で向かうべき拡大運動への必要性の訴え掛け、出席率向上への工夫が足りませんでした。				
事業目的検証	対外的	会員の約半数に参加いただき、会員拡大の意義をしっかりと伝えることができ、多くの人を巻き込んで活動するきっかけとなると共に、鳥取青年会議所の想いを伝える運動を更に推し進めるきっかけとなり、因幡地域の活性化に繋がっていると感じます。			
	対内的	会員拡大の重要性に理解を頂いた結果、後期入会15名という例年にない会員増加に繋がっていると感じます。また、情報提供、拡大交渉への現場同行等を率先垂範していく会員が拡大アカデミー以降に増え、意気あふれる人材の育成に繋がったと言えます。			
事業内容検証	運営上	講演、デモンストレーション、グループディスカッションという3部構成で臨みましたが、途中参加、途中退席等も確認しており、本来の想いの部分から形へ、そして今後の展望といったストーリーを体感していただくことができなかった会員がいました。事業イメージをしっかりと発信して学びやすい構成にしておく必要もあると感じます。また、開催時期について、本年度の4月開催をきっかけに5、6月の動きに繋がったことを考慮すると、4月での早い時期の開催と可能であれば前期新入会員、後期新入会員への啓発の含めて、後半にもアカデミー開催することも検討してください。			
	予算上	今回は日本青年会議所の協力もあり、正式に講師の交通費の支払いのお断りを受けました。予算をかけない工夫、仕組みも必要ですが、継続してLOM内の人材育成等をしっかり予算化し、消費ではなく投資として継続して拡大運動の必要性を訴えるべきと感じます。			
	その他	事業前、事業後で拡大訪問経験の管理で意識の数値化を図りました。本来であれば全会員が拡大訪問を経験して全員で活動していることをしっかりと伝えることができれば良かったと感じます。			
今後の展望	拡大運動を継続して取り組むためには、核となる人材の育成と共に、LOM全体でこの重要性、必要性をしっかりと継続して発信していく必要があります。また、この運動がJC活動の根幹である以上、LOMの将来、そして、地域のためにも継続的かつ、重点的に行う必要があります。				

委員会名	会員拡大特別委員会				委員長	石川 陽介			
事業名	経営開発セミナー まちのたね								
実施日時	2014年10月5日(日) 1部:10時00分～10時50分 2部:11時10分～12時00分 3部13時30分～15時30分								
会場	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校								
参加人員	内部	50	人	外部	第1部63 第2部65 第3部63	人	計	241	人
動員計画検証	チラシ・ポスターの配布、掲示とともに新たな試みとしてWeb広告を取り入れまい。結果、紙媒体に比べて4倍の効果がありました。若い世代においてはPCやスマートフォンといった閲覧から申し込みまでその場で完結できる仕組みは効果的と言えます。								
事業目的検証	対外的	参加者の属性や参加者の声から伺えるように、地域経済の発展に寄与したと言えます。また、鳥取青年会議所が行うセミナーとして、外部講師、内部からのパネリストを起用することで組織イメージの向上やブランド価値を高める一助となりました。							
	対内的	企業経営に関する見識を高めることは個人の知性を高めるとともに、会員の所属する会社に大きく影響することは間違はなく、個人、会社に自信がつくことで当青年会議所に所属することに意義を見出し、組織の発信へとつながります。よって、本事業をきっかけに組織活動の根幹となる会員拡大の一助なつたと考えます。							
事業内容検証	運営上	講師については本年度のコンセプトにマッチングした方であり、非常に高評価を得ました。しかしながら、時間配分において、短いという意見が多数あり、講義の質はもちろん、講師が求める時間と参加者が求める時間でバランスのとれた運営が必要と感じました。また、本事業のようなセミナーを開催するにあたり、第一線で活躍されたい方の成功事例を参加者が対話形式で参加できる講義のニーズが高いこともわかりました。							
	予算上	今回は、第一線で活躍される講師ではありましたが、比較的安価で引き受けてくださいました。目的達成の手法によっては、実行するために多額の予算が発生することがあります。そのような場合は参加料等を設けて運営していく必要があります。リスクは高いですが発信が肝となる事業において、今後はもっと工夫が必要です。補助金申請において初歩的なミスによって、交付不可となりました。スケジュールの管理と補助金の仕組みをしっかりと理解することが大切です。また、補助金に頼らない事業の構築も検討してください。							
	その他	参加者視点で事業を構築していくことは大切ですが、このようなセミナーを開催するにあたり、しっかりと着地点を見据えて事業構築をする必要があります。本年度は拡大につながる事業として、第3部でのパネルディスカッションで理事長と会員を起用し、しっかりと鳥取青年会議所を発信することができました。何をすることも大切ですが、誰がするのかということもしっかり考えて事業を構築してください。							
今後の展望	参加者からの声にもあるように、このような第一線で活躍されている講師に出会える機会を待ち望んでいます。また、時代とともに鳥取青年会議所も進化していかないとかなければなりません。青年会議所運動の最終目的である「明るい豊かなまちの実現」のためにも地域経済の発展の重要性を理解し、地域経済が発展する根底の部分である地元企業の発展にもしっかりと寄与する事業の構築・実施を継続していくことが当青年会議所の価値を高め、組織活動の根幹である会員拡大につながると考えます。								

委員会名	総務渉外委員会				委員長	尾前康寛
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 新年祝賀会式典					
実施日時	2014年1月11日(土)18時00分～18時40分					
会場	ホテルニューオータニ鳥取(鶴の間 西)					
参加人員	内部	82人	外部	70人	計	152人
動員計画検証	<p>欠席予定のOB会員へベテランメンバーから声掛けをして頂き、数名の追加参加を頂く事が出来た。欠席理由には、他の会とダブっていることでやむを得なく欠席との声が多々見受けられた。仕方ない面もあるが、やはり1日でも早く案内ハガキの送付と電話案内をする必要性を感じました。</p> <p>今後は、ベテラン・若手関係なく、OBとつながりの深い交流のある現役会員の特定の精度を上げ、早い段階で把握し参加のお願いの協力をしていくことで、さらに数名参加を増やせる可能性があると考えます。</p> <p>来賓・OB会員の当日キャンセルを最小限に抑えることが出来た。これは開催直前の1週間前に委員会メンバーで出席予定の来賓・OB会員の皆様へ案内の連絡を行った事で効果が出たのではないかと感じました。</p> <p>現役会員は、91%の出席率を得られた。本年は、定例会時、理事長挨拶、委員長挨拶での呼びかけの徹底、各副委員長への100%出席の呼びかけを徹底して行ったことが90%を超える出席率につながったものと考えます。</p>					
事業目的検証	対外的	<p>創立55周年を迎え、「因幡創新 日本一輝くまちのデザイン」のスローガンを掲げる2014年度のまちづくり運動への意気込みの理解を来賓やOBをはじめとする外部の皆様に、ご理解頂け、今後更なる連携強化に繋がる式典を設営出来ました。</p>				
	対内的	<p>まちづくり運動への思い、本年度の活動方針を力強く来賓・OB会員の皆様に決意表明した縫谷理事長の熱い思いを多くのメンバーが聞いた事は、改めて意思を統一し同じ目標を見据える事、そしてこの一年の活発な活動に繋がることに違いありません。</p>				
事業内容検証	運営上	<p>準備段階からスケジュールをしっかり共有しスムーズに当日を迎えることができました。</p> <p>当日の運営について、式典会場の中と外の伝達をする担当を決めていなかったため、式典で来賓の方を読み上げる専務への来賓の遅刻、欠席の伝達できていなかったことは反省点です。式典がはじまると特に伝達は難しくなるため、インカム等の連絡系統を充実することの検討も必要と感じました。</p> <p>あいさつを頂く方に依頼する際、持ち時間をしっかりと伝えていませんでした。持ち時間をしっかりと伝えることで、少しでも時間通りの運びにつながる可能性があったことは反省点です。</p> <p>※その他、添付資料「引き継ぎ事項」参照</p>				
	予算上	<p>展示パネルが落下しない対策として最終的に強力な両面テープを予備費で購入しました。</p>				
	その他					
今後の展望	<p>来賓・OB会員の皆様をお招きする側として現役会員の高い出席率を実現することが不可欠です。また、多くの来賓・OB会員の皆様にお越し頂く動員計画に重点を置いた事前準備に力を入れていくことが、まちづくり活動を各団体・個人と連携しながら活発に行っていく上で重要だと考えます。</p>					

委員会名	会員開発委員会				委員長	池谷 裕司			
事業名	3分間スピーチ								
実施日時	2014年 2月～8月定例会時								
会場	定例会会場								
参加人員	内部	114	人	外部		人	計	114	人
動員計画検証	<p>本年の発表者は、2013年以前の入会で未発表の全ての会員を対象としました。当初の発表予定者のうち、1名のみが参加出来なかったため、委員会内で入れ替えて頂きました。所属委員会とともに声掛けを行いました。定例会の参加が難しかったため、代役を立てて頂くこととしました。</p>								
事業目的検証	対外的	なし							
	対内的	<p>①定例会という会員が一同に集う厳粛で緊張感のある雰囲気での発表を行う難しさ。 ②テーマに沿って熟慮を重ね、事前に何度も練習を重ねてきた努力。 ③その努力があるからこそその発表後の達成感と反省・悔しさ。 上記の点は、いずれの発表者にも感じて頂けたことで、これらの経験こそが今後も含めた個人の資質開発に繋がると感じます。</p>							
事業内容検証	運営上	<p>①テーマ 「5年後の私の目標」というテーマにより、目標を新たに明確にする良い機会となりました。一方で、数字や夢・目標の整理が中心となり、目標設定や発表方法などについて調査・研究を重ねることについては個人差が大きく、調査研究を主眼とした場合には取組み難いテーマ設定であったことは否めません。 ②事前フォロー 会員開発委員会が主導する形で実施しましたが、所属委員会とより連携を図り、常に共同で実施するべきでした。しかし、事前フォロー後も自主的に練習を重ね、再フォローの依頼があるなど、発表者の自発を引き出すことができました。 ③講評 講評者の講評に対する理解度に左右され、本来意図した講評とならないことがありました。資料配布、事前練習時での模擬講評の実施、委員会・定例会での声掛けなど、丁寧に継続的な取組みが必要と考えます。 ④事後フォロー DVDにて発表を確認することが一番大きな気づきがあるようでした。今後も、このような振り返りの機会は引き続き必要と感じます。</p>							
	予算上	なし							
	その他	<p>事前、事後フォローとも、当委員会、発表者、所属委員会とのスケジュール調整がうまくいかず、常に遅れがちでした。事前にタイムスケジュールをしっかりと全員で共有する必要性がありました。 事後フォローは会員開発委員会のみに対応していましたが、今後の若手会員の育成や3分間スピーチの意義継承を含めると、所属委員会を含めて実施する必要があると感じます。</p>							
今後の展望	<p>3分間スピーチは、発表者にとって大きな挑戦であると共に、個人の指導力開発に欠かせない事業であります。本年の発表者も事前に入念な準備を重ねられました。 その努力を所属委員会、運営委員会とともに共有し、共により良い3分間スピーチとなるような工夫を検討し、継続して頂きたいと思っております。</p>								

委員会名	会員開発委員会				委員長	池谷 裕司			
事業名	研修会員への研修会								
実施日時	前期:2014年01月入会～正会員承認まで／後期:2014年06月入会～正会員承認まで								
会場	商工会議所会議室、鳥取市文化センター会議室、宇部神社								
参加人員	内部	開発11、 研修会員11	人	外部	安陪OB、 宇倍神社4	人	計	27	人
		開発10、 研修会員15			安陪OB、 宇倍神社4		30		
動員計画検証	前期11名、後期15名の研修会員を研修会の目的を体感しながら正会員へと導くことが出来た。前期入会者のうち1名については、四役、所属委員会の協力も頂き留意に務めたが、途中で退会となってしまった。後期においては、出席義務項目を予定通り進めることが出来ず、3名について年度内での承認ができなかった。								
事業目的検証	対外的	なし							
	対内的	<p>第一回、第二回研修会では、鳥取青年会議所の会員として必要な基礎知識とマナー、そして議論する力(調査研究能力、発言力など)を身に付けて頂いた。また、OB講演では、卒業生ならではの視点から、JCで得たこと、卒業後に活かされたこと、そして目的をもって活動に取組めば必ず成果が得られることを体験を踏まえてご講演頂いた事で、研修会自体への説得力が増したと考えます。</p> <p>第三回の研修会では、入会という節目を強く戒める修練を行うとともに、自ら判断・理解して取組む体験型研修を経たことで、今後のJC活動に積極果敢に取組める意識醸成の一助となりました。</p>							
事業内容検証	運営上	<p>第一回研修会では、限られた時間内で、すぐさま活かせる最低限の知識やキーワードを習得できるように、スライドや小テストを用いて講義を行うことで、効率的に身に付けて頂きました。</p> <p>第二回研修会までに約二ヶ月の期間を置き、最低2回のチームミーティングを課したことで、十分な事前準備と予備議論が実施できたとともに、同期同士の絆醸成にも繋がったことで、研修会の目的達成の一助となりました。また、より切迫した高度な議論とするために、運営委員会がフォローすることも効果的と考えますので、今後の検討課題としてください。</p> <p>第三回研修会では、刻々と変化する時代背景や人的情勢、LOMの環境なども考慮に入れ、何を心得、体験して頂きたいかを十分に考慮して内容を検討する必要があると考えます。</p>							
	予算上	第三回の研修会として、早朝から夕刻まで宇倍神社さんにご協力を頂くことから、謝礼金として対応しました。							
	その他	<p>本年度は幾つかの運営ミス(司会ミス・唱和ミス)がありました。研修会員へは、一貫して厳しい姿勢で臨むことが緊張感と説得力を生みますので、委員会内での事前準備は入念に行ってください。</p> <p>事業等への参加率向上や研修会のフォローについて、所属委員会との連携が必要不可欠です。それぞれの役割を明確にして、定期的に連絡を取り、状況確認することも大切と考えます。</p>							
今後の展望	研修会の内容も大切ですが、運営委員会として、先輩会員としての見本となるべき姿・行動も大切です。また、所属委員会との連携を綿密に行い、研修会員の成長という目的を同じくして、真摯に研修会に取組んでください。								

委員会名	会員開発委員会				委員長	池谷 裕司	
事業名	定例会の運営						
実施日時	1月定例会(1/22)、2月定例会(2/19)、3月定例会(3/19)、4月定例会(4/16)、5月定例会(5/21)、6月定例会(6/18)、7月定例会(7/16)、8月定例会(8/20)、9月定例会(9/17)、10月定例会(10/22)、11月定例会(11/19)、12月定例会(11/26)						
会場	鳥取産業会館・商工会議所ビル(1・3・4・5・6・8・9・10・11・12月)、白兔会館(2・7月)						
参加人員	内部	113人	外部	0人	計	113人	
動員計画検証	平均して85.8%と近年では比較的高い出席率となりました。動員は各副委員長が中心となって声掛けをして頂きましたが、一部メンバーの出席率が悪く、個別に声掛けなどを行ったが大きくは改善できませんでした。欠席しがちな会員は、出席しにくくなっている事が多いため、所属委員会を中心に参加しやすい環境を創り出すと共に、親しい会員にも協力を要請するなど、あらゆる手段を用いる必要があると感じます。						
事業目的検証	対外的	なし					
	対内的	高い出席率を維持でき、会員同士の情報共有や交流は図れたと考えます。クローズアップ委員会報告では、全ての委員会に発表をして頂き、各委員会の活動内容および活動元年となる改訂運動ビジョンへの理解を効果的に深め、今後のJC活動の更なる発展に繋がる礎となりました。					
事業内容検証	運営上	月に一度、全会員が集る貴重な場です。緊張感があり、各自の想いのこもった報告を決められた時間内にすることが求められます。本年度は、事前に聞取りのうえ調整をさせて頂きましたが、決められた時間を守れない会員が多く見受けられました。限られた時間の中で報告をする時間の重みを考え、一人一人改善すべきと考えます。クローズアップ委員会報告では、各委員会へ趣旨が伝わりきらず、スライドの体裁や内容について何度も修正をお願いしました。また、発表もほとんどが委員長が行われました。趣旨を整理して、的確にお伝えすると共に、発表も委員会ごとに工夫ができるようにする必要がありました。卒業生スピーチでは、前年からの引継ぎもあり、発表者へ日時や所要時間などを丁寧にお伝えしました。卒業生スピーチは数回ありますが、卒業生にとっては一生で一回の晴れ舞台でもありますので、引続き最大限の配慮が必要です。					
	予算上	2月、7月の会場を時間の都合上でホテルモナーク鳥取から白兔会館へ変更したため、マイナス差額が発生しました。また、納会の形態変更に伴い、12月の会場をホテルモナーク鳥取から鳥取産業会館へ変更したため、同じようにマイナス差額が発生しました。外部褒章授与式、内部褒章授与式 並びに プレジデンシャルリース伝達式で使用するために、スポットライトを追加でレンタルしました。					
	その他	本年度は、定例会前の準備委員会は、全ての連絡や段取りを終えた状態で実施し、備品のチェックやシミュレーション、改善点の議論をメインに行いました。このことで、緊張感をもって定例会に臨めたことと、数々の改善ができたと考えます。引続き、月に一度、全会員が集う会を運営するという重責を感じる委員会運営へ心掛ける必要があります。					
今後の展望	青年会議所活動の核となる事業の1つがこの定例会です。全メンバーが一堂に会し、心地よい緊張感を持ちながら、より活発な報告などができるように工夫と検討を重ねて実施してください。						

委員会名	会員開発委員会			委員長	池谷 裕司
事業名	公益社団法人 鳥取青年会議所 2014年度 卒業式				
実施日時	2014年11月28日(金) 18:00～19:26				
会場	ホテルモナーク鳥取 鳳翔の間				
参加人員	内部	94人	外部	0人	計 94人
動員計画検証	本年度は、12月定例会後に内部褒章授与式並びにプレジデンシャルリース伝達式があること、卒業生が15名ということから、時間的余裕を持たせるために別日にて開催しました。開催日については、卒業生へ事前聞き取りを行い、全員が出席可能な日とすることで、公欠者を除く全ての卒業生に参加して頂けました。しかしながら、週末・月末の18時開催ということもあり、例年に比べて約6%程度出席率が落ちました。また、遅刻者も多く(出席者の12%程度)、今後は開催日時について本年度の結果を踏まえた配慮が必要となることと、事前連絡において強く時間厳守を促す必要があります。				
事業目的検証	対外的	なし			
	対内的	緊張感のある中で卒業式を執り行うことができ、卒業生への感謝の意を形として伝え、新たなる門出を祝福する事ができました。また、在籍メンバーは、卒業生と共に活動できた喜びを分かち合うと共に、卒業生の想いをしっかりと継承し、組織の結束力を高めることにも繋がったため、当初の目的は達成できたと考えます。			
事業内容検証	運営上	前年度からの引継ぎと、以前より利用しているホテルモナーク鳥取で行ったため、写真撮影を含めてスムーズな会場設営ができました。また、事前に委員会で現地リハーサルを行い、会場レイアウト、登壇・降壇の仕方、起立・着席のタイミングなどを全て確認できたため、当日も細かい動きを説明しながらリハーサルを行うことができ、段取り良く次第を進行できました。 感謝状は、所属委員会の多大なるご協力を得て作成する事ができました。しかし、作成者により文字数のばらつきがあるため、文字数の制限があることを事前にしっかりと説明しておく必要があります。また、事前に理事長に提出して読み上げに支障がないかを確認して頂くことで、当日のスムーズな読み上げと時間進行が可能となりますので、今後も必要と感じます。 ※その他は引継ぎ資料を参照			
	予算上	<ul style="list-style-type: none"> ・送辞、答辞、記念品目録: 昨年と同じ業者へ発注をしましたが、本年は加工代が別途に必要となったため(昨年は委員会メンバーであった)、単価が400円→1,000円となりました。また、答辞、記念品目録についても、運営側か卒業生側のどちらかが用紙を用意するのか曖昧であったため、用紙は全て運営側で用意することとしました。 ・帽子作成費: 過去の事例を参考に予算計上をしていましたが、同一の材料がなかったため類似品を購入し、以前よりある帽子に合わせた仕上げとしましたが、計上額を越える事になりました。 ・写真代: 公欠者の写真を別枠で入れるための加工費が別途必要となりました。 			
	その他	なし			
今後の展望	これまで鳥取青年会議所の活動を全力で支えて頂いた卒業生へ感謝の想いを伝えることの出来る大切な儀式です。今後も私たち現役メンバーの想いがしっかりと通じる式典を執り行ってください。				

委員会名	青少年育成委員会				委員長	藤田 直也	
事業名	若草学園施設交流事業						
実施日時	2014年3月4日(火)10:00～12:30						
会場	若草学園・湖山西体育館						
参加人員	内部	58人	外部	99人	計	157人	
動員計画検証	早めの案内、若手メンバーへの事前説明会、各メンバーへの呼びかけ等を行ったが約6割の参加となった。年度末、平日ということもあるが今後は呼びかけはもちろんの事、事前説明会に各委員会の副委員長に出席してもらい、内容を各委員会メンバーに伝える事で、更なる参加意識の向上に繋がると考えます。						
事業目的検証	対外的	ミニ運動会タイムを設ける事により子ども達がルールに従って楽しみながら競技をやり遂げる過程で、子ども同士で力を合わせて競技を行うなど、子ども達にとって成長の一助になったと考えます。また、大学生に運動会の運営を一任し、事前打ち合わせを行い、若草学園の職員の方とも打ち合わせを行い、ミニ運動会を実施した。皆で協力して行ったことで、新たな気付きであったり、新たな取り組みであるミニ運動会を一体感を持って実施でき、子ども達参加者とJCメンバー、大学生皆でふれあいを多く持つ事が出来た。後半の各ブースで遊ぶ時間も、子ども達と一緒に楽しむことが出来、終始会場中に笑顔があふれていた。					
	対内的	ミニ運動会など本年度の工夫を取り入れたことで、多くの「ふれあい」を持つことができ、交流事業を通じ、JC活動、「まちづくり」の根幹になる福祉や思いやりの心を育み新しい多くの気付きを学ぶきっかけの場となった。これにより今後のまちづくり活動へ活かして行けると考えます。					
事業内容検証	運営上	ミニ運動会を行うことで会場に一体感と盛り上がりを持たせる事が出来た。若草学園・大学生と打ち合わせを行ってきたが、初の試みのミニ運動会のシュミレーションが不足しており、少々設営と進行でもたついてしまう場面があった。事前説明会に各委員会の副委員長に必ず参加してもらい、当日の進行をメンバーにしっかり把握してもらう事も必要と考えます。また、事前説明会では事業の意義、内容説明をしっかりと行うことにより、メンバーの事業参加意識を高める事に繋がった。昼食は、大学生、若手メンバーに多く参加してもらった事で新たなふれあいの機会を設ける事が出来た。しいたけもぎ採りブースのしいたけが生えなかった時の代換ブースの準備も必要です。					
	予算上	購入品が品切れになっているものがあり、当初の予算金額と差異が出てしまった。保険料は参加人数で変動するので必ず前日に最終確認をして申請する。					
	その他	前日の体育館予約が他の団体と合同になった為、運動会のシュミレーション不足になってしまった。前日準備にも大学生に加わってもらうことで各担当者の動きを確認出来、当日の運営に繋げることが出来た。打合せは各大学生の代表者のみの参加でしたが、他の大学生メンバーも打ち合わせにも加れば事業の内容、運営の向上に繋がり、大学生にとっても良い経験になると考えます。過去の好評だった内容を残しつつ、新たにミニ運動会を開催する事で先生や保護者、大学生、JCメンバーにも大変好評でした。					
今後の展望	若草学園の関係者皆様が毎年楽しみにしていただいております、(公社)鳥取青年会議所で50年以上継続されている一番歴史がある伝統事業です。子ども達と共に楽しみながら、事業を通してメンバーが福祉の心、思いやりの心を再認識し、今後のJC活動に対して多くのパワーと気付きを得れる事業です。今後のJC活動、まちづくりの活動にとって非常に大切な事業であると考えますので事業の重要性を継承し、若草学園施設交流事業を継続して下さい。						

委員会名	青少年育成委員会		委員長	藤田 直也	
事業名	Go! Go! ステキ発見バスツアー! ~kidsが伝える国府の魅力~				
実施日時	ステキ発見隊勉強会:2014年9月10日(水)~10月18日(土)、バスツアー:2014年10月19日(日)、事業後聞き取り: バスツアー終了後随時				
会場	①ステキ発見隊勉強会:国府東小学校(国府東小学校)、宮ノ下小学校(宮ノ下小学校) ②ステキ発見バスツアー・発表会:国府町、万葉フェスティバルin鳥取(国府中央公民館)、殿ダム				
参加人員	内部	66人	外部	81人	計 147人
動員計画検証	一般参加者は予定の2倍の申込があり期限を早め打ち切った。掲載広告で33%の申込があり、多くの目にふれる為、募集方法として適していた。また、各学校へのチラシ配布依頼によりダイレクトにターゲットを動員できた。しかし、本事業展開におけるキーポイントと考えていた教育関係者の動員は計画通りにいかなかった。これは、当日にイベントが各地で集中していたこと、参加意欲に訴えかけるアピールが弱かったなどが考えられる。教育関係者の動員を図る場合に対策が必要である。具体案として、ステキ発見隊が地域愛を深める地域学習への意欲向上と子供の自主性の醸成に効果的であることをよりアピールする事、また、ステキ発見隊自体の知名度向上が必要であるとする。				
事業目的検証	対外的	本年度はステキ発見隊の最大の問題点である発表の場を、地域のイベントに組み込むことにより設定することが出来た。子ども達の自主性や達成感といった所ではある程度の成果はあったが足りない部分もあった。自主性や達成感を更にするには、勉強会での工夫や、子供ガイド以外の地域の文化的要素や、何より子供たちが楽しめる仕組みがモデルエリアの構築に必要である。しかしながら、地域のイベントに組み込んだ事で多くの地域協力者を得られ、地域愛と自主性を育む環境を構築する一歩を踏み出した。今後、モデルエリア構築のためにも更なる連携を深める必要がある。			
	対内的	過去の問題点を解決する為に地域を国府に絞って事業を行う事でモデルエリアの構築への一歩、ステキ発見隊を継続出来る検証を行う事が出来た。また、子ども達と共に地域の宝を学ぶ事が出来新たな地域愛を再確認する事が出来た。			
事業内容検証	運営上	万葉フェスティバルに関わる全ての団体との連携、連絡が上手く取れておらず計画当初の打合せ段階取りが事業直近になり変更された為、対応が必要だった。計画どおりに進める為にも万葉フェスティバルの運営の話合いが毎年3月の終わりから4月頃に行れ始めるので、次年度はその時点で加わり、取りまとめる方をICでサポートし、国府の小学生のスケジュールなど全体での協力体制を強める必要があります。また、勉強会は期間的に余裕を持ち、関わる方と綿密な話し合いをし組み立てる必要がある。			
	予算上	勉強会を進めていく上で子供たちの提案により、発表用パネル・発表用紙印刷・発表用ワイヤレスマイク等の費用を借入れが必要となりました。また、若者定住促進事業補助金は審査会の申請と、本申請の申請の2回の申請書の提出が必要になります。			
	その他	本事業の様にバスなどで移動する形式で参加者を募集する場合、参加費が無料の場合でも旅行業法で資格を持っている旅行会社を通して募集をする必要があります。			
今後の展望	本年度構築の一歩を踏み出した環境を維持し来年度は国府をモデルエリアとして完成させて下さい。ステキ発見隊に関しても子供ガイドという形に囚われず地域の伝統文化、踊り、場所、物、人、など根ざした様々な形も模索して下さい。また、このモデルエリアを足がかりにして他地域への拡がりを見据え、他地域の地域学習を調査して下さい。そして、各地域でこのモデルエリアの様な環境を構築し、将来的には各地域の魅力を競い合う場、「いなばステキ甲子園」の開催を目指して下さい。				

委員会名	因幡のグリーン政策委員会		委員長	谷口 拓史	
事業名	きのこパートナーシップ～因幡の自然は明日への希望～				
実施日時	2014年9月20、21日				
会場	智頭町、岩美町、菌茸研究所、乾燥地研究センター、JCLしいたけの森				
参加人員	内部	71人	外部	17人	計 88人
動員計画検証	事業対象者をこの度は事業内容に準じて絞り込んだこともあり、人数的には応募を超える募集があった。しかし、鳥取大学乾燥地研究センター、(一財)日本きのこセンター菌茸研究所の見学、意見交換会を実施するにあたって、企業側の管理職の方や研究者を多くお招きするには至らなかった。企業側の事を考えるとスケジュール的に早めの事業計画の立案、アプローチも必要である。				
事業目的検証	対外的	”因幡オリジナルの環境保全”を”きのこで繋がる環境保全”と定義したことで、環境保全の一例を分かり易く理解頂けた。また鳥取大学乾燥地研究センター、(一財)日本きのこセンター菌茸研究所の見学、意見交換会を介すことで機関同士の繋がりはもちろんの事、お招きした企業に因幡地域の環境研究機関に興味を持って頂けたが、実際に企業と因幡地域の環境保全を繋げるというところまでは至らなかった。			
	対内的	本事業を通じ、(一財)日本きのこセンター菌茸研究所、鳥取大学乾燥地研究センター、鳥取環境大学、行政、企業との橋渡しという点では、研究機関、大学は今後お互い協力頂ける繋がりが出来たが、企業とは興味を持って頂く程度となった。また、環光のまち因幡推進運動を進めていく上で、今まで新生鳥取砂丘政策に関連していた鳥取大学乾燥地研究センターは、環境研究、将来的環境産業という可能性において、因幡のグリーン政策の方向性に適していると言える。			
事業内容検証	運営上	各プログラム毎に担当者を予め定め、各々の役どころを責任持って遂行することでタイムテーブル通りの進行を行うことができた。また事業前に各会場現地へ赴き、しっかりとしたシミュレーションを行ったことで当日の不測の事態にも対応できるような体勢がとれた。意見交換会に関しては、議題に乗っ取った進行に心がけたものの、一つの議題に対してディスカッションする形式の方が本質を聞き出しやすかった。オプションも参加者負担で行ったが不満もなく因幡の自然を体感して頂けた。			
	予算上	森と海の交流体験プロジェクト事業補助金に関しては、採択要件にある補助金対象者の確認不足もあり、補助金を仰ぐことが出来ず参加企業数の増大を図れなかった。			
	その他	行政を意見交換会の場で交えたことで、今後鳥取県へ企業を誘致していくにあたっての現状の認識であったり、企業目線で鳥取がどう映っているかを確認していただくきっかけの一例となった。			
今後の展望	本年度事業で繋げることができた機関、行政、企業のパイプをより強固なものにして、更協力者、賛同者を増やし、”きのこで繋がる環境保全”という外部の方にも分かり易い森林保全活動のツールをバージョンアップさせ事業展開する。またそれを研修及び社会貢献の場として提案してゆき、因幡地域に環境研究機関が集積しているという特異性を地域イメージとして定着させる。そして、因幡地域の特異性を求めて企業等が参入し、人・物・お金が集まる環境産業の先進地となる。				

委員会名	究極の田舎政策委員会				委員長	若本憲治	
事業名	田舎体験型出合い交流事業 ～うみやまコン～						
実施日時	<ul style="list-style-type: none"> ・うみやまコン 8月30日(土)～8月31日(日) ・参加協力男性勉強会 8月3日(日)、8月24日(日) ・地域連携戦略会議 7月14日(月)、8月3日(日)9月13日(土)、10月16日(木) 						
会場	わったいな(賀露)・白兔神社・たんぼり荘(佐治町)・佐治アストロパーク・東浜海岸(岩美町)・鳥取砂丘・砂の美術館						
参加人員	内部	113	人	外部	67	人	計 180 人
動員計画検証	<p>男性動員:各市町村、参加地域から協力を得てバランスよく行ったため動員に成功したが、職種が偏り参加女性から指摘があった。参加地域の地元男性が参加したため、外部協力者のモチベーションにも繋がった。今後、よりモチベーション、意識が高い男性を動員することが必要。公募した上での面接等も検討してください。</p> <p>女性動員:フリーペーパーの配布開始が7月後半だったため、7月前半は、委員会メンバーの友人知人へのSNSを使った声掛けを行い定員に対して半数以上の動員に成功した。PLUS LUMINO(フリーペーパー)はターゲットが明確だったこともあり、配布が開始されるとかなりのレスポンスがあり、結果的に定員を超え約15名のお断りが出た。動員期間をもっと長く取る事が出来れば、フリーペーパーのみでの動員も可能だった。今回全体:結果として、応募過多の状態となってしまったことは反省すべき点だと感じた。用意していた各施設に合わせて人数を設定した部分も否めないため、ある程度収容人数に余裕のある施設、コースを選定すべきだと感じた。</p>						
事業目的検証	対外的	<p>地域連携を推進していく上で婚活という手法を用いたことで多地域の団体、地元住民を巻き込み連携を図ることができたが、田舎環境の価値を更に高めるためには、より早い段階から密に連携して活動していく必要がある。参加をしていただいた地域や団体の意識が想定していたより高く、しっかりと協力が得られた。因幡地域全体を活性化するには参加していただく地域や団体を増やしていき大きなネットワークにする必要がある。そのためにも、発信力があり、戦略会議のメンバーのモチベーションがより高まる事業展開を行う必要がある。地域連携戦略会議を充足したことで今後の田舎政策を発展させる仕組みづくり、土台ができたと言える。</p>					
	対内的	<p>事業の性質上、メンバーが参加できる場所が少なかったため、触れて頂く場所を作るべきであった。各地域が単体で事業をするのではなく、因幡地域が一つの地域として問題点や目的を共有し事業構築することで、今後田舎政策の大きな発展となる。</p>					
事業内容検証	運営上	<p>各セッションごとに地元地域の方にご協力をいただいたことでスムーズな運営ができた。但し、地域ごとに多くの方が関わるので綿密な打ち合わせが必要である。成人の男性と女性の集まりなので様々な配慮が必要。今回、佐治の魅力がうまく伝えられなかったため、開催地域との打ち合わせは早い段階から行い一緒に事業構築することが必要。戦略会議はそれぞれの都合があるので集まりやすい日時を検討して下さい。</p>					
	予算上	<p>当初の予定より参加人数が増え、宿泊可能な人数まで増やした。そのため予算の補正をすることとなった。事業後の決算が遅れたため、修正議案の上程が11月理事会となってしまった。</p>					
	その他	なし					
今後の展望	<p>因幡の自然環境の価値を活かし広めるためには、地域の協力が不可欠であります。地域が協力しあい、活かしあうことができる地域戦略会議を今後も継続、発展させることが必要である。戦略会議を発展させることで人と人の環を作り、会議体の理念の元に田舎の魅力に磨きをかけ鳥取JCで活かすことで究極の田舎政策の発展はもとより、「環光のまち因幡」推進運動の更なる発展に寄与できる。</p>						

委員会名	新生鳥取砂丘政策委員会				委員長	藤田良二
事業名	トトリDEアスロンin砂丘～山陰海岸ジオパークの自然を体感しよう～					
実施日時	事業 2014年9月14日 9:00～13:00 意見交換会 2014年9月25日 19:00～21:00					
会場	事業:鳥取砂丘周辺 意見交換会:市役所大会議室					
参加人員	内部	74人	外部	66人	計	140人
動員計画検証	<p>【事業について】 動員は募集人員50名に対し52名の動員を達成しました。岡山・神戸・姫路へ出向きチラシを配布し、詳しく情報を伝えることで県外からの誘致も得られたが、効果的な動員計画がなされれば、もっと多くの誘致が図れた。それにより鳥取砂丘の魅力である自然をもっと広く発信することが出来たと考える。 また県内外問わず、鳥取砂丘の魅力である自然を存分に体感できる事業であるということがチラシ、SNS、ホームページ等を通して感じられたことで動員につながったと考えます。それはトライアスロンというツールの有効性が生んだ動員であったと理解しています。</p> <p>【意見交換会】 事業構成の段階から関係各所に何度も訪問し、当委員会の事業に対する思いを伝えた。DEアスロン開催後も報告にも出向き、次年度以降に向けての協力要請を熱く語りかける事によって、外部8名の参加予定が各機関複数名計14名もの参加が得られた。それはトライアスロンというツールの有効性が生んだ動員であったと理解しています。</p>					
事業目的検証	対外的	<p>当日の雰囲気やアンケート結果から、参加者に鳥取砂丘の自然環境の素晴らしさを十分に体感して頂く事ができ、地域イメージの定着に繋がった。 また、事業に関するマスコミの報道、各関係各所との協働、地域住民への周知、また参加者の声から、次年度以降もトライアスロンを活かした運動に向けての気運を着実に高める事ができたと考えます。</p>				
	対内的	<p>この事業を通して、今後の新生鳥取砂丘政策の推進がトライアスロンを活用することの有効性を明確にした。また、事業の運営を通して、実際に砂丘の自然環境を感じて頂き、参加者の楽しそうな反応をみて、鳥取砂丘の持つ価値・魅力を再認識して頂き、砂丘に対する誇りの醸成に繋がりました。</p>				
事業内容検証	運営上	<p>【事業実施】 ・広域な舞台での事業であった為、人員配置がギリギリであったため、ボランティアの運営も考えるべきであった。 ・波が高かった為、スイム部分の内容変更を余儀なくされた。その場合のシミュレーション不足の為、競技時間が予定より短くなった。 ・暖かい時期での開催が好まれる。 【意見交換会】 ・和気藹々とした雰囲気の中、今後協力して頂きたい方々の率直な意見を聞きたかったが、大人数となった為、硬い雰囲気の意見交換会となった。しかし、今後に繋がる意見は確りと持ち帰ることが出来た。</p>				
	予算上	<p>補助金を使用する事によって、参加費を1,000円とすることが出来た。参加者としては大変魅力ある大会にできた。</p>				
	その他	<p>鳥取大学乾燥地研究センターと連携を図ってきましたが、今度、窓口となる担当者の人事異動により、連携内容を再度検討してください。</p>				
今後の展望	<p>トライアスロン本大会への誘致から、地域イメージ定着のための発信を行っていく事を願って活動を進めてきたが、多くの協力者、参加者等のご意見、意見交換会を踏まえ、我々の掲げる夢に必要なコンテンツを盛り込み、鳥取砂丘オリジナルなトライアスロン大会の大規模開催を目指します。その大会を年々飛躍させ、協力団体からトライアスロン本大会の実施を願われるくらい影響力を持って、大きな運動を巻き起こし、その仲間と共に砂丘政策を効果的に発信する事により、「鳥取砂丘＝環境」イメージの定着を実現させます。その結果、環境分野において優れた鳥取砂丘に滞在型リゾート型観光客が集まり、人・物・お金が集まる地域になる考えます。</p>					